

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図れるようにしましょう。

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている場所があります。ひらがなと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断してください。

(K…啓林館, G…学校図書, T…東京書籍)

学年	単元	単元のめあてと授業のポイント
1年	2巻⑦	・6月号参照
	2巻⑧ かず しらべ 同様単元 G9月⑥ T9月⑥	<p>◎ 単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もののかずの わかりやすい あらわしかたを かんがえて、はなそう。 </div> <p>◎ 授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物の個数を、絵や図の大きさをそろえて 種類ごとに均等に並べて表すようにする。このことで、身の回りの事象に関する数の大小関係を、分かりやすく表したり その特徴を読み取ったりできるようにする。 ・2年①「ひょうや グラフ」に発展する。 <p>【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.125D(1)参照】</p>
2年	上巻⑦ かさ	<p>◎ 単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もののかさの くらべ方・あらわし方・計算のしかたを かんがえて、せつめいしよう。 </div> <p>◎ 授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.87～89では、「かさの普遍単位」は、かさを 誰とでも比べ合ったり伝え合ったりする場合に必要になってくる。このような場面を工夫したい。 「かさの異なる任意単位」を基にすると かさが比べられないことから、単位をそろえる必要性に気付くようにする。このことが、普遍単位につながっていく。そして、大きさを普遍単位で数値化することを「はかる」ということを知らせる。普遍単位は、3年⑩「重さ」、4年⑩「面積」、6年⑧「立体の体積」でも用いられるので、大切である。 ・p.90～91では、1dL(児童の生活で実感できる分量)で測定しているとき、④「長さ」の学習を生かして「もっと大きい(小さい)単位がいる」→「単位1L(mL)の導入」 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <p><u>児童に考えてほしいこと</u></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <p><u>知らせること</u></p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・p.92では、量感を育てる→ペットボトル、水筒の蓋などを利用して。 ・p.93の「3L5dL+1L2dL」のような複数単位の計算では、単位をdLにそろえたり 同じ単位同士を線で結んだりして計算すれば良いことに気付くようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>【単位をdLにそろえる】</p> $3\text{L}5\text{dL} = 35\text{dL}$ $1\text{L}2\text{dL} = 12\text{dL}$ $35\text{dL} + 12\text{dL} = 47\text{dL}$ </div> <div style="text-align: center;"> <p>【同じ単位同士を線で結ぶ】</p> $3\text{L}5\text{dL} + 1\text{L}2\text{dL} = 4\text{L}7\text{dL}$ <p style="margin-top: 5px;">4L 7dL</p> </div> </div>
	3年	上巻⑦ たし算と

	ひき算 同様単元 T7月⑦ G5月④	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 2けたの数の たし算ひき算のしかたを ^{あん}暗算で考えて、せつ明しよう。 </div> ◎ 授業のポイント ・計算の結果について、見通しをもつことが大切である。たす数ひく数について、繰り上がり繰り下がりのない場合とある場合の 範囲を明らかにしてから 計算するようにする。
	どんな 計算に～	・問題文の意味を文章の区切りごとに読み取って、図や線を用いて その理由が説明できるようにする。学習指導要領で重視される 説明力を高める単元である。
4年	上巻⑥	・6月号参照。
	見積もりを 使って	・買い物など 数のまとまりを作って和を概算する数学的活動を工夫することで、概算のよさを理解し、説明できるようにする。下巻⑩「がい数とその計算」に発展する。
5年	どんな 計算に～	・問題文の意味を文章の区切りごとに読み取って、図や線を用いて その理由が説明できるようにする。学習指導要領で重視される 説明力を高める単元である。
6年	どんな 計算に～	・問題文の意味を文章の区切りごとに読み取って、図や線を用いて その理由が説明できるようにする。学習指導要領で重視される 説明力を高める単元である。

<お知らせと お願い>

「算数教育ネットワーク岡山」でHPを検索して、毎月の「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育情報コーナー」等をご覧いただき、日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、seiden_atmark_po.harenet.ne.jp までMailでお知らせ下さい。(_atmark_ を@に直して下さい。)